

9・2 広報活動

海運の役割や重要性を幅広く訴えるため、オピニオンリーダーや報道関係者に対し、適宜プレスリリースを行うとともに会長記者会見や懇談会の開催、ホームページによる情報発信などを通じて、当協会の活動をアピールした。

また、学校・学生等も含めた一般向け広報に関しては、見学会の実施をはじめとして、あらゆる機会を捉えて各種パンフレット、DVD等を配布するとともにホームページの活用などにより、海運の重要性についてPRに努めた。

活動概要は以下の通りである。

9・2・1 オピニオンリーダー・マスコミ向け広報

(1) 定例記者会見等の開催

当協会定例理事会開催日に、一般紙記者および海運専門紙記者を対象として、会長による定例記者会見を実施した。また、適宜プレスリリースを行った。

(2) 論説委員/記者対応の充実

専門紙各記者との懇談会を実施するなど、各種取材に積極的に協力するとともに、海運の役割や重要性などをPRした。

(3) 専門紙への掲載

各専門紙とタイアップし、「Shipping Gazette 60周年記念号」(2012.8)及び「日本海事新聞 70周年特集号」(2012.11)に芦田会長のインタビューを掲載したほか、「海事プレス 新春対談」(2013.01)には芦田会長とゴールドマン・サックス証券持田社長との対談を掲載した。

(4) その他

① テレビ

平成 25(2013)年 1 月 23 日に、山陽放送の報道ドキュメント番組「RSK 地域スペシャル・メッセージ」で、五十嵐副会長が造船業界「2014 年問題」について海運業界としてどう捉えるかについて取材・インタビューを受けた。

② ホームページの更新と雑誌「KAIUN」への広告掲載

当協会の活動やプレスリリースおよび各種レポートなどをホームページに掲載するとともに、

雑誌「KAIUN」(月刊)を通じて、当協会首脳の意見や海運業界の動向ならびに当協会の活動などを掲載し、積極的にPRした。

9・2・2 一般向け広報

(1)海運紹介映画「日本の海運」(DVD)の配布

一般の幅広い層を対象に、人々の暮らしに結びついている日本の海運の役割と重要性を認識してもらうために、平成 19(2007)年 3 月に作成した映画「日本の海運」(DVD)をSEA-JAPAN などあらゆる機会を通じて配布し、海運に対する認識の向上に努めた。なお、配布数は平成 25(2013)年 3 月で累計 12 万 6 千本に達した。

(2)映画「日本の海運」改定作業

平成 15(2003)年作成の映画「日本の海運」の内容が、現在の海運業界の実態にそぐわなくなっていることから、改定版(DVD)の作成に向けて、コンセプトなどの検討を行った。

(3)小学校教師向け見学会の開催

平成 24(2012)年 7 月 31 日、石油連盟との共催により、東京都小学校社会科研究会の教師を対象として、東京水辺ラインの水上バスに乗船し海事施設の見学や、石油精製施設の見学会を開催した。今年度は、富士石油(株)の協力を得て実施した。なお、この見学会には、47 名の教師が参加した。

また、同年 8 月 20 日には福岡市小学校社会科研究会の教師を対象に、九州運輸局、(一社)博多港振興協会、九州地方海運組合連合会の協力を得て定温倉庫の見学や福岡市営渡船に乗船し、海から博多港の海事施設を見学した。この見学会には 21 名の教師が参加した。

(4)寄附講座への講師派遣協力

①松山大学の寄付講座への協力

松山大学の要請により、同大学で開講された公開講座「海事経済論」全 15 講座のうち、6 講座について当協会会員会社より 6 名の講師派遣を行い、海運に対する理解促進に努めた。

②物流連大学寄附講座への講師派遣協力

(一社)日本物流団体連合会が関西大学、横浜国立大学、首都大学東京、一橋大学で、行った物流全般をテーマとする大学寄附講座のうち、外航海運の講座について、当協会会員会社より 4 名を講師として派遣し、各校 1 講座、計 4 講座に協力した。

③関西海事アライアンスへの講師派遣協力

大阪大学、大阪府立大学、神戸大学による関西海事教育アライアンスとして 3 大学大学院の連携授業が開講され、当協会会員会社より 5 名講師として派遣し、計 12 回の講座について協力した。

④東京大学公共政策大学院への講師派遣協力

同大学院の「海事産業・政策論」1 講座に、当協会の会員会社より講師 1 名を派遣するとともに、コンテナターミナルの施設見学に協力した。

(5) 当協会ホームページの拡充

海運界の動きを発信していくため、ホームページを通じて、当協会首脳の見解ならびに海運政策・税制、海賊・安全、環境問題に関する動向を掲載するとともに、最新のプレスリリースやレポートなどにより海運業界が直面する問題および当協会の対応を発信し、一般向けの海運の PR 強化に努めた。

(6) パンフレットの配布

(公財)日本海事広報協会の協力の下、「SHIPPING NOW」の 2012-2013 年版制作に引き続き協力するとともに、既存の子供向け学習マンガ「船ってサイコー」を海事関係団体が実施するイベントやホームページを通じて積極的に配布し、海運への関心・認知度向上に努めた。

(7) 「子供達に海と船を語る(船長、母校へ帰る)」事業(委託事業)

(一社)日本船長協会が実施する「子供達に海と船を語る(船長、母校へ帰る)」事業については、平成 24(2012)年度も(公財)日本海事センターの協力を得て実施された。当協会は、各種パンフレット・DVD の提供等を通じ、同事業に積極的に協力した。

今年度の実績は、全国の小中学校からの要望により、9 回開催され、延べ 670 人を超える児童・生徒に対し講義が行われた。

9・2・3 会員向け広報

(1) 各種情報の提供

会員向け情報の提供については、随時電子メールにて送信するとともに、当協会ホームページ(会員コーナー)を拡充して、理事会配布資料をはじめとして各種の情報をメンバーが随時検索できるようデータベース化を進めた。

(2)「平成 25(2013)年海運講習会」の実施

当協会は、会員会社およびその関係会社の新入社員を対象とした海運講習会を毎年開催している。開催の目的は、海運界で働く者としての自覚と社会人として必要な心構えを育成することであり、平成 24(2012)年度は 2013 年 3 月 28 日に開催し、合計 153 名が参加した。

当日は、当協会 五十嵐誠副会長の「海運は本当に面白い」と題する講演を皮切りに、日本郵船(株) 森田喜信 調査グループ長から「海運の現状」を、獨協大学 竹田いさみ教授には「世界史をつくった海賊」を、また(株)商船三井 稲岡俊一 船長から船長講話を講演願ったのをはじめ、コミュニケーションマナー講座などを行った。

9・2・4 その他

(1)海事記者会および会員会社の便宜を図るため、同記者会のプレスリリース窓口業務を行った。